

# 石仏散歩

## No.125

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2026年3月31日 発行  
事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941  
ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石仏散歩

### 「さんべ稲荷」と

### 「三平池之跡」石碑

—「サンペ」における水神信仰—

阿賀野市 岩野 笙子

阿賀野市緑町にある「さんべ稲荷」は水神として信仰され、かつては、雨乞い儀式が行われたという伝承がある。

新潟市中央区女池にあった「三平池」さんぺいけには、大亀が池の主であったと伝承されている。

大亀オウガメ水神と考えると「さんべ稲荷」と「三平池」両者の水神信仰の共通点は「サンペ」という地名にあると考えられる。「サンペ」とは如何なる地名なのであろうか。

新潟県各地にサンペという地名が存在していることを、長谷川勲氏が「にいがた地名考—歴史と由来—」で論考しているの、ここに引用する。

「サンペはふるくはサワベであったのだろう。それがサワンペと方言的に発音されるうち、縮まってサンペとなったものであろう。(中略) 聖籠町の字切り図によれば、山あいでもない砂丘地帯にも『別行澤』べつぎょうざわ『替地澤』かえちざわのような澤地名が存在するのだ。こうした平場の浅い水たまりのほとりが『澤辺』の原意であろうが、後には、既に見たように水たまり

(沼) そのものを澤辺さわべと叫ぶようになったものと考えられる。「にいがた地名考29澤辺」平成27年新潟日報事業社発行)  
筆者は、砂丘地帯の浅い水たまりはオアシスの小型版であり、

新潟砂丘には数知れないオアシス(サンペ)が存在したものと考察する。

新潟県各地にあるサンペと水神信仰の関わりを知りたく思い、皆様からの情報を期待している。



史蹟三平池之跡



さんべ稲荷と鳥居(阿賀野市緑町)

# 亀田・横越地区の歴史と石仏を訪ねて

— 下越・新潟地区見学会報告 —

弥彦村 柏原 路子

10月9日に実施された下越・新潟地区の見学会。前後の日が雨なのに、当日だけ晴天に恵まれ、まさに見学会日和だった。新潟駅南口と江南区文化会館前で集合解散。

今回の見学地は、信濃川・阿賀野川・小阿賀野川の三河川に囲まれた「輪中」とよばれる地域である。長年にわたる水との闘いの歴史が人々の暮らしに大きな影響を与えてきたところでもあった。そのため集落は海岸線と平行に続く古い砂丘地帯と自然堤防上に立地していた。

亀田郷と水との闘いは、洪水による被害はもちろんであるが、特に著名なのは「腰まで水につかっつての農作業」、いわゆる「芦沼」での米づくりであった。それが、戦前から国策で土地改良が始まり、長い年月をかけて県内有数の穀倉地帯に変えていった先人たちの労苦の歴史を、江南区郷土博物館の展示で知ることができた。

この地域では、土地改良や道路改修な

どに伴って、石造物が当初あった場所から移されたことが多々あったようだ。社寺の境内地や墓地などに移されたりすることも多かったが、元あった場所や由来等が地域の伝承や記録に残っていないこともあったのは残念だった。

江南区大淵の東陽寺は、洪水のため二度の移転を経、更に曹洞宗に改宗したという。境内の中世石仏は他から移されて祀られたものだということが分かっている。

同区小杉の松韻寺は、開山時は真言寺院であったが、のち親鸞が立ち寄り、真宗寺院に改宗したという伝承がある。ここには如意輪観音、馬頭観音、聖観音、青面金剛、双体道祖神、五輪塔、宝篋印塔・中世石仏など、様々な石仏が境内に並んでいる



新潟県石仏の会 下越・新潟地区見学会「亀田地区の歴史と石仏を訪ねて」 2025年10月09日

東陽寺山門前にて



松韻寺の石仏群

が、収集したものの、各地の廃絶寺院などから移されたものなどがあり、由来など不明なものが多いという。

同区北山の曹洞宗亀寿院では境内に十一面観音（「村木氏建立」の銘あり）と宝篋印塔が建てられている。村木氏は亀田の開発を主導した土豪だという。

これまで阿賀野川を上ってきたが、ここから旧横越町に入った。横越では沢海七面堂を見学した。このお堂は阿賀野川堤防の外側に位置する日蓮宗の仏堂で、元は七面島と呼ばれる境外地にあったという。ツツガムシ病除けの七面大明神が祀られている。11月16日に開催された「石仏フォーラム」で、講師の森行人氏が映像で解説しながら紹介された仏堂である。

同じく沢海の蝸牛様とよばれる石祠は牛頭天王を祀っている。牛頭天王はツツガムシを鎮める祠に多く祀られているという。この石祠は、元は「天王島」とよばれる中島にあったといい、ツツガムシを鎮める祠という伝説が伝わっている。阿賀野川流域にはツツガムシ関連の石造物がいくつか残っているようだ。

今回は10月に「現地見学」したお堂を、11月のフォーラムで「座学」という、

いい体験に恵まれた機会であったといえる。

いい見学会であったが、直近に体調不良で3名が欠席となり、参加者が13名となってしまうのは残念であった。



蝸牛様の石祠(沢海)

### ◆お知らせ

中越地区見学会については、同封の別紙チラシにてご案内します。ぜひご参加お待ちしております。

中越事務局

## 彼岸過ぎの雪墓

柏崎市 渡邊 三 四

ちょうど一年前の彼岸過ぎに、旧松之山町の日帰り温泉に行った折である。魚沼などの豪雪地帯では「雪墓」といって春彼岸に雪に埋もれた自家の墓石の上に雪で模擬的な墓を作って参る風習がある。ダメもとで湯山集落の古老に尋ねたところ、「三、四日経っているが、まだ形は残っているだろう」とのこと、墓地に案内してもらった。確かに崩れかけてはいたが、点在する雪のマウンドに花々が供えられていた。間もなく春彼岸。大雪の今年こそは出来立ての立派な雪墓を見たいと思っている。



旧松之山町湯山の雪墓

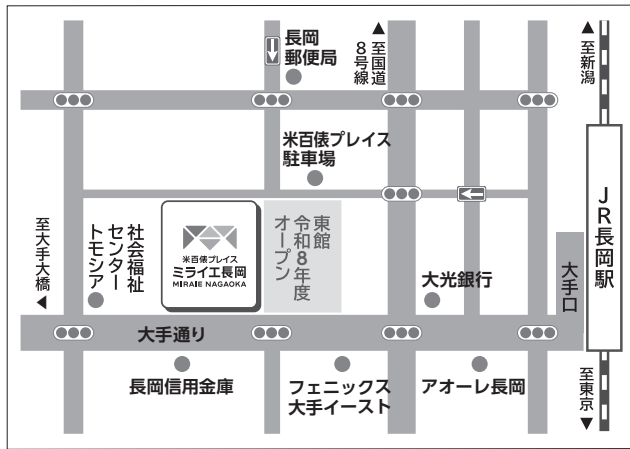
# 事務局だより

## 令和8年度総会のご案内

今年度総会を左記のとおり開催します。ぜひご参加ください。出欠は同封ハガキにて5月15日(金)までに返信願います。

日時 5月23日(土) 13時～16時30分  
会場 ミライエ長岡 4階ミライエステ

upp(長岡市大手通2丁目3-10)  
長岡駅大手口から徒歩6分【左図】



## 第一部 公開講演会(13時～)

演題 蒲原平野と東京の銭湯

―越後の石造物は語る―

## 第二部

講師 吉田律人さん(横浜都市発展記念館主任調査研究員)  
総会(14時40分～)  
令和7年度事業報告・決算報告  
令和8年度事業計画・予算案  
その他

## 第三部

懇談会(16時～)

## 第四部

懇親会(17時～)  
会場 富寿し長岡駅前店  
会費 6000円

## ◆上越地区見学会のお知らせ

日時 5月28日(木) 9時25分～17時頃  
(例年よりひと月遅れの日程です)  
テーマ 保倉川流域に祀られる庚申塔と二十三夜塔を訪ねて  
集合 ①マイカー→9時25分 直江津・船見公園(地図別途配布)  
②電車→9時30分 JR直江津 駅南口ロータリー

## 見学地

今回は、巡見対象を庚申塔と二十三夜塔に絞った内容となりますので石仏名を省き、該当地域名のみを表します。

- ① 浦川原地区↓東俣・有島・虫川・山崎・中猪子田
  - ② 大島地区↓大平・田麦→四か所
- ※板山不動尊

## 昼食

大島区公営施設「大島庄屋の家」

## 解散

和食定食(揚げ物・和え物・汁物・ご飯ほか)  
17時頃の予定(遠隔地巡見のため帰着が若干遅くなります)

## 参加費

5000円(バス代、昼食代、資料代、保険代等を含む)

## 定員

20名

## 申込み

5月10日(日)締切り(先着順)  
上越事務局 栗間啓志まで  
携帯 090-7803-2428  
電話 025-544-5398

## ◆『石仏ふおらむ』16号の原稿を募集

本年10月刊行予定の本誌への原稿を募集します。日頃の調査研究の成果をはじめ、石仏に関わる小報告など、ぜひお寄せください。執筆希望の方は事務局まで連絡願います。

お願い 令和7年度の会費未納の方には振替用紙を同封しました。至急納入願います。

## 編集後記

雪消えの時期を迎えました。前記のとおり今年度の総会と二つの見学会(中越はチラシ)を計画しました。今年も皆様とお会いするのを楽しみにしております。

下越・新潟地区事務局 堀内 正子